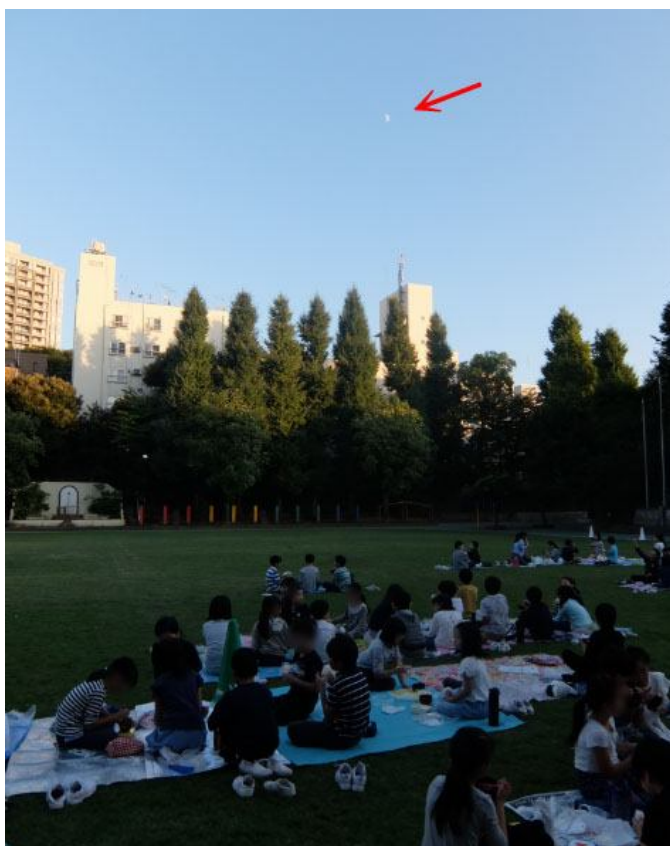


「創造活動・24時間学校(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(6) 「半月」を眺めながら「半月汁」を楽しむ

時刻は17:30だったが、少し早い夕食となった。場所は芝生の校庭。「半月がよく見える場所」を選んで、各班、思い思いの場所で楽しく夕食をとっていた。



これは、実に幸せそうな光景だった。こういう時、子どもたちは、自分の思いを案外素直に口にするものである。その中にいくつか印象的なものがあった。

「半月汁食べながら、半月見るなんて、もう一生できないよね。なんか、すごくいい気分」

「月って、夜にしか見れない(見られない) と思ってた。夕方でも見えるんだね」

「〇〇ちゃん(自分の名前)ね、半月って始めて見た。ほんとに半分なんだね」

私は、特に最後のつぶやきに非常に驚いた。3年生にして「半月をはじめて見た」という子どもがいることに、である。いや、半月を見たことがないわけがない。「半月を、あれは半月だ、と思って見た」という体験がはじめてなのだ。「ほんとに半分なんだね」という言葉にも、そのことが表れている。

(7) 半月汁の具と、半月を比べて見る

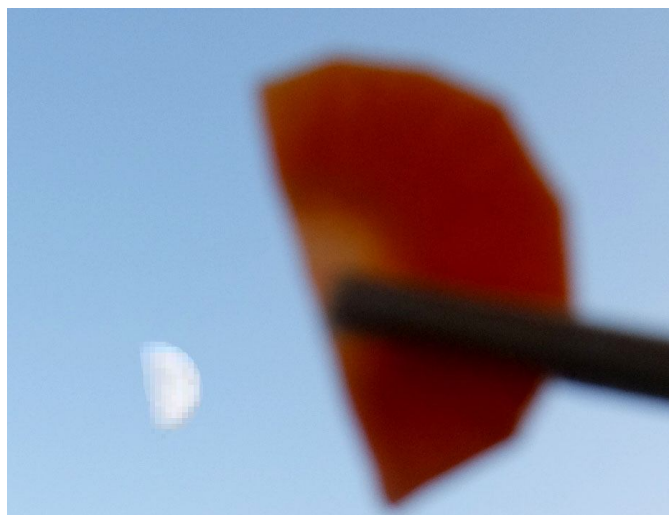
「半月汁」は、12名(希望者は50名以上)の保護者ボランティアの方に作っていただいた。「半月汁」という名称に合うように、内容も考えてもらい、買い出しまでしていただいた。「半月」をどのように表現するか、私も楽しみだったが、いろいろな具が半月型になっていて、とても楽しい内容だった。



食べ物を遊びに使うのは良くないが、私は少しだけその具を使った指導を試してみた。

「半月汁の具と、本物の半月を比べてみましょう」

子どもたちは、さっそく箸の先で具をつまんで、半月にかざして比べていた。こんな時でも、子どもたちはいくつかのことに気付いていたようだ。教師は、こういう「気づき」に「気づく」ことが大切だ。



「半月・・・っていうか、月ってちっちゃ!腕のぼしても、かまぼこよりずっとちっちゃい」

「何かさっき校庭で遊んでたときよりか、半月、右に動いた気がする。右って南・・・?」

「ニンジンと半月くらべたら、まっすぐの線(明暗境界線の意味)の向きがわかった。3時ぐらいより縦に(垂直に)なってる」